日本学術会議
政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会（第26期・第1回）
議事録

開催日時 2024年1月21日（日）13時00分～15時12分

開催場所 オンライン開催の遠隔会議（zoom ミーティング）

出席者：大串和雄（委員長）、宇山智彦、鈴木基史、遠藤貢、粕谷祐子、河田潤一、久保慶一、武田宏子、竹中千春、中田瑞穂、野田昌吾、三浦まり、宮本太郎

欠席者：なし

陪席者：南野佳代

議事に先駆けて、出席者の自己紹介が行われた。また、法学委員会ジェンダー法分科会の南野佳代世話人が紹介された。

議事概要

1. 分科会の人事について

(1) 委員長の選任

分科会の委員長として大串和雄委員が選任された。

(2) 副委員長の選任

分科会の副委員長として粕谷祐子委員が選任された。

(3) 幹事の選任

分科会の幹事として遠藤貢委員、久保慶一委員が選任された。

2. 今期の活動方針について

(1) 意思の表出について

大串委員長より、この分科会の前身にあたる第25期の比較政治分科会では、日本における女性の政治参画というテーマについて、法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、第一部総合ジェンダー分科会と共同でシンポジウムを行ったり、外国から講師を招いての講演会を行ったりしたことが紹介された。また、共同シンポジウムの結果は『学術の動向』の特集記事としてすでに公表され、まもなく学術会議叢書の1冊として刊行される予定であることも報告された。

続いて、分科会の設置提案書にも記載されているとおり、今期は女性の政治参画について

意思の表出を目指すことが確認された。具体的な作業の進め方としては、小委員会(議題3)を設置して意思の表出の叩き台を作成し、分科会で審議して、小委員会と何度か往復した後最終案を確定するという手順をとること、また小委員会の叩き台を法学委員会ジェンダー分科会と合同で審議し、同委員会と共同で意思の表出を行うことが決定された。意思の表出のカテゴリーとしては、見解もしくは提言となることが確認された。

(2) 公開イベントについて

少なくとも年に1回、公開イベントを開催する方針が決定された。

(3) 政治と学問をめぐる問題の比較研究

今期の分科会で、政治と学問の関係やその民主主義への影響について世界の事例を比較する研究活動を実施することが決定された。

3. 小委員会の設置について

議題2で審議された女性の政治参画に関する「意思の表出」の案を起草する小委員会を本分科会の下に設置することと、その構成メンバー5名が決定された。

4. 今期の公開イベントについて

(1) 2024年度(武田委員)

武田委員から、2024年度の公開イベントの準備状況について説明があった。

(2) 2025年度(遠藤委員)

遠藤委員から、2025年度の公開イベントの準備状況について説明があった。

(3) 2026年度以降

2026年度の公開イベントは竹中委員が企画・実施を担当することが決定された。

5. 政治学委員会について

特段の報告はなかった。

6. 総会について

鈴木委員から昨年12月の臨時総会での議論とその後の動きについての説明がなされた。宇山委員より、昨年12月以降の学術会議を取り巻く動静についての補足説明がなされた。

7. その他

次回の分科会は4月ないし7月にオンラインで実施すること、またそのための日程調整

を後日実施することが確認された。